

## 論文

第2次大戦前におけるドイツの銀行顧問会の  
活動と企業間関係（Ⅰ）

——ドイツ銀行の地域顧問会の事例——

山崎敏夫\*

## 要旨

「協調的資本主義」と特徴づけられているドイツをみると、第2次大戦前の時期には、カルテル容認という国家の政策のもとで企業間の協定による独占組織の広範な網の目が築かれるとともに、銀行による信用業務、証券業務、交互計算業務、株式所有、役員派遣などの多様な方法によって、産業と銀行の間の緊密な関係が築かれてきた。なかでも、監査役会と取締役会から構成される二層制のトップ・マネジメント機構のもとで、前者における役員兼任による人的結合が広い産業の多くの企業において行われており、それは、産業と銀行の利害が一体となったドイツ「金融資本」の組織性の根幹をなすものであるといえる。役員兼任による産業と銀行の結びつきは、産業に対する銀行の影響力の基盤をなすが、銀行の工業政策のための重要な情報の入手手段をなすものであるとともに、産業企業にとっても情報の交換・共有のための重要な機構となってきた。

このように、企業間の人的結合においては役員の派遣・兼任による結びつきが基軸をなす。しかし、ドイツでは、監査役会や取締役会のような法的に定められた企業の経営の意思決定機関、行為機関ではないが、銀行の顧問会制度による人的な交流、つながりも、産業・銀行間および産業企業間の緊密な関係の形成において重要な意味をもつものとなってきた。大銀行においては、第2次大戦前から、主要な地域ごとに顧問会組織が設置され、当該地域をはじめとするさまざまな産業の多くの企業との人的な結びつき・交流のための機構が築かれてきたというケースがみられる。また第2次大戦後には、地域顧問会の拡充がはられるとともに、戦勝国の占領政策のもとで解体された銀行の再結合にともない1957年の設置であったドレスナー銀行を例外として、1965年株式法によって1人の人物が就任可能な監査役会ポスト数が制限されるなかで、役員兼任による人的結合を補完する

---

\* 立命館大学経営学部 教授

手段として本店顧問会の設置がすすんだ。

それゆえ、銀行の顧問会組織の活動、こうした機関による企業間人的結合の構造の解明が重要な問題となってくる。こうしたテーマに関しては、筆者はすでに、第 2 次大戦後のドイツにおける本店顧問会と地域顧問会の組織による企業間人的結合の構造と機能、さらには戦前の銀行の地域顧問会制度による企業間の人的結合の構造を明らかにしてきた。これらの分析をふまえて、本稿では、戦前期のドイツの顧問会組織の活動の考察を行う。ドイツ銀行を事例として、地域顧問会の会議の開催状況と参加メンバー、会議の内容、この組織のメンバーの人事などの分析をとおして、銀行顧問会組織による産業企業と銀行の間の、また産業企業間の協調的關係の特徴を明らかにする。

## キーワード

監査役会 銀行 顧問会 産業・銀行間関係 地域顧問会 ドイツ ドイツ銀行  
役員兼任

## 目 次

- I 問題の所在
- II 地域顧問会の会議の開催状況と参加メンバー
- III 地域顧問会の会議の内容とその特徴
  - 1 ライン・ヴェストファーレン地域顧問会のケルン組織の会議とその内容（前半まで本号、後半から本号）
  - 2 フランクフルトーヘッセン地域顧問会の会議とその内容
  - 3 ハノーファー・ブラインシュヴァイク・ヒルデルスハイム地域顧問会の会議とその内容
  - 4 ハンブルクーホルシュタイン地域顧問会の会議とその内容
- IV 地域顧問会のメンバーの人事
- V 地域顧問会の意義
- VI 結語

## I 問題の所在

産業と銀行の間の密接な結びつきに基づく産業集中の体制は、ドイツ資本主義の蓄積構造の基軸をなすものとして発展してきた。それは、産業と銀行の独占的資本の融合・癒着による「金融資本」<sup>1)</sup>の成立をみる 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての独占形成期に生成した。産業と銀行の關係は、銀行による産業企業への影響力、銀行の工業政策の基盤をなすものであると同時に、両者の協調的なシステムをなすものでもある。そのような關係性は、銀行による信

用業務、証券業務、交互計算業務、株式所有、役員の派遣などの多様な方法によって築かれてきたが、監査役会での役員兼任は、産業・企業間関係の構築・維持のための重要な手段をなしてきた。

もとより、大企業には、必ずしも単独で意思決定し行動するのではなく業務上の関係、資本関係や人的結合関係などの多様な方法によって協調的な企業間関係を構築し、それを生かしながら経営を展開しているという実態がみられる。なかでも、ドイツでは、ユニバーサル・バンク制度という特徴的な金融システムのもとに、監査役会における役員兼任は、産業企業と銀行の間や産業企業間の情報の交換・共有のルートを築くものであり、企業間の種々のコンフリクトや利害が市場競争においてよりはむしろ協議において調整される可能性を生み出すものである。ドイツでは、銀行は特定のコンツェルンと結びつくというよりはむしろ広くコンツェルン全体との結合関係を展開させてきたという傾向にあるが<sup>2)</sup>、このことは、人的結合関係の構築においても大きな意味をもつものである。

ドイツにおける産業と銀行の間の、また産業企業間の人的結合は、監査役会および取締役会のメンバーである役員や兼任のみならず、銀行顧問会制度による人的な結びつき、つながりをとおしても築かれてきた。ことに銀行の本店顧問会は、第2次大戦後の戦勝国の占領政策のもとで解体された銀行の再結合にともない1957年に設置されたドレスナー銀行のような例外を除くと、1965年株式会社によって1人の人物が就任できる監査役会ポストの数が制限されたことへの対応として、企業間の人的結合のレベルを維持するために設置されたというケースが一般的であり<sup>3)</sup>、役員兼任による企業間の人的結合を補うという点でも重要な意味をもつものであった。また、銀行には重要な支店の存在する主要エリアごとに設置された地域顧問会の組織が存在してきた。地域顧問会は大銀行では第2次大戦前からみられ<sup>4)</sup>、戦後には一層の拡充がはかられ、重要な役割を果たしてきた。

顧問会は、監査役会や取締役会のような法的な権能をもつ決定機関、行為機関ではなく、それゆえこれらのトップ・マネジメント機関のポストをとおしての兼任による企業間の人的結合、企業間関係とは性質が異なるものである。しかし、銀行の顧問会組織は、監査役、取締役や企業のその他のメンバーの情報の収集・交換の場となっており、銀行と多くの産業の企業との間の、また産業企業間の情報の共有のための手段として、また利害調整の手段として重要な役割を果たすものである。このことは、顧問会はトップ・マネジメント機能を担う役員や決定事項に非公式な影響をおよぼしうるものであることを示すものである。そのような意味でも、顧問会は、役員兼任による企業間の人的関係、人的つながりを支える役割、企業関係の形成において補完的・促進的役割を果たしうるものであり、企業間のつながりを生み出す手段・機構として、重要な意味をもつものとなってきた。

それゆえ、産業・銀行間関係に基づく産業システムの重要な機構をなす企業間の人的結合の

構造と機能の分析によって企業間協調のメカニズムを把握することは、産業集中体制の構造と機能、ドイツ企業の行動様式の基盤を明らかにする上で、また同国資本主義の特質を理解する上でも重要な意味をもつものであるといえる。ことに銀行の顧問会制度をとおしての企業間の情報の交換・共有という点では、顧問会の構成メンバーが入手しうる情報の領域やその幅は、企業の監査役会や取締役会における彼らのポスト保有のありようにも大きく依存している。顧問会メンバーが監査役会や取締役会というトップ・マネジメント機関のポストを保有して場合や役員兼任を行っている場合には、銀行にとっても、また各地域顧問会にメンバーを送っている企業にとっても、多様な有益な情報の交換・共有の可能が一層拡大することになる。

このように、役員兼任や顧問会制度による企業間の人的結合の形成をとおして大銀行が広く多くの企業と結びつくことによって築かれる、産業・銀行間および産業企業間の個別具体的な関係の総体としての企業間結合のシステムの構造と機能のメカニズムにこそ、ドイツの特徴がみられる。それゆえ、産業と銀行の間の人的結合について、個別具体的なケースに基づくその構造と機能の考察をとおして企業間の協調のメカニズム、そこでの銀行の役割を解明し、ドイツの産業・銀行間関係の構造と機能、同国資本主義の協調的性質の内実を把握すること、さらには企業の行動様式の基盤を明らかにすることが、重要となる。しかし、大銀行と主要産業企業との間や産業企業間の個別具体的な関係の総体としての産業集中のドイツ的システムにおいて根幹をなす企業間人的結合の構造および機能の発揮の仕方をトータルに把握するという重要な問題において、研究の空白部分が存在する。そうしたなかで、銀行顧問会制度による企業間の人的結合がどのような機能を発揮してきたのか、その役割を明らかにすることが重要な問題となってくる。

そのような状況のなかにあつて、これまでの研究では、役員兼任による企業間の人的結合の構造、人的ネットワークの構造については、重要な研究成果が蓄積されてきた<sup>5)</sup>。またこうした人的結合による兼任監査役の役割についても、少ないながらいくつかの研究成果が発表されてきた<sup>6)</sup>。しかし、ドイツの銀行顧問会組織による企業間の人的結合、そのような組織の活動と役割については、解明はすすんではない<sup>7)</sup>。ドイツの銀行顧問会による企業間人的結合のもつ上述のような重要性から、筆者はすでに、第2次大戦後のドイツにおける本店顧問会と地域顧問会の組織による企業間人的結合の構造と機能<sup>8)</sup>、さらには戦前の銀行の地域顧問会制度による企業間の人的結合の構造を明らかにしてきた<sup>9)</sup>。

そこで、本稿では、第2次大戦前の時期のドイツにおける大銀行の地域顧問会組織の活動の考察をとおして、銀行顧問会組織による産業企業と銀行の間の、また産業企業間のつながり、協調的関係の特徴を明らかにする。そのさい、最も代表的な事例をなすドイツ銀行の顧問会制度を取り上げて考察を行うことにする。なお、利用する史料(資料)は、ドイツ銀行の文書館に所蔵されている一次史料であるが、とくに同行の地域顧問会の議事録、地域顧問会の人

事に関する各種の文書や書簡のやりとりなどを中心にして分析する。そのさい、最も代表的な組織であったライン・ヴェストファーレン地域顧問会を中心に持ち上げて分析を行うこととし、議事録に関する史料が存在するその他の地域の顧問会についても補足的にみていくことにする。ライン・ヴェストファーレン地域は戦前期のドイツにおいて炭鉱業や鉄鋼業を中心として当時の最も有力な基幹産業部門であった重工業が集積していた地域であること、史料の保存の状況、閲覧上の制約から特定の地域顧問会に分析を限定せざるをえなかったという事情が、その理由をなす。なお考察の時期としては、有効な一次史料の存在という理由から、1930年から終戦の45年までの時期を中心とする。

以下では、まずⅡにおいて、地域顧問会の開催状況と会議への参加メンバーについて考察する。つづくⅢでは、地域顧問会の議事録をもとにして会議の内容についてみていく。Ⅳでは、地域顧問会の機能の発揮のひとつの重要な基礎をなす、こうした組織のメンバーの選任に関する人事の問題を取り上げる。それをふまえて、Ⅴでは、銀行と産業企業との人的結合の手段としての地域顧問会の役割、意義を明らかにする。以上の考察から、Ⅵでは、本稿の結論を提示する。

## Ⅱ 地域顧問会の会議の開催状況と参加メンバー

まず地域顧問会の会議の開催状況とそれらへの参加メンバーについてみておくことにしよう。ドイツ銀行のライン・ヴェストファーレン地域顧問会はケルン、エッセン—デュッセルドルフ（1934年の営業年度はエッセン）、ヴッパータールの3つの顧問会から構成されていたが<sup>10</sup>、ここでは、会議の議事録の存在するケルンの顧問会を中心に考察し、同地域顧問会の他の2つやそれ以外の地域の顧問会についても補足的にみておくことにする。

ドイツ銀行の文書館に会議の議事録として保存されている一次史料によって確認することのできる1934年から42年までの期間でみると、ケルンのライン・ヴェストファーレン地域顧問会の会議は、34年7月26日、35年1月9日、同年6月17日、同年11月27日、36年5月5日、同年11月11日、37年4月20日、同年10月28日、38年3月31日、同年11月2日、40年4月30日、41年5月7日、42年4月15日に会議が開催されている。こうした記録で確認できる限りでは、1年に2回の会議が開催されているケースが多かった。

これらの会議の参加メンバーをみると、1934年7月26日の会議には、この地域顧問会の会長のほかドイツ銀行の関係者を含めて46人の出席があり、出席者は合計47人となっており、欠席者10人を含めた57人が招聘されていた。1935年1月9日の会議には、この地域顧問会の会長のほか49人の出席があり、出席者は合計50人となっており、欠席者8人を含めた58人が招聘されていた。1935年6月17日の会議には、この地域顧問会の会長のほか41

人の出席があり、出席者は合計 42 人となっており、欠席者 8 人を含めた 50 人が招聘されていた。1935 年 11 月 27 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 48 人の出席があり、出席者は合計 49 人となっており、欠席者 5 人を含めた 54 人が招聘されていた。1936 年 5 月 5 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 41 人の出席があり、出席者は合計 42 人となっており、欠席者 14 人を含めた 56 人が招聘されていた。1936 年 11 月 11 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 53 人の出席があり、出席者は合計 54 人となっており、欠席者 10 人を含めた 64 人が招聘されていた。1937 年 4 月 20 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 51 人の出席があり、出席者は合計 52 人となっており、欠席者 9 人を含めた 61 人が招聘されていた。1937 年 10 月 28 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 48 人の出席があり、出席者は合計 49 人となっており、欠席者 11 人を含めた 60 人が招聘されていた。1938 年 3 月 31 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 50 人の出席があり、出席者は合計 51 人となっており、欠席者 16 人を含めた 67 人が招聘されていた。1938 年 11 月 2 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 48 人の出席があり、出席者は合計 49 人となっており、欠席者 15 人を含めた 64 人が招聘されていた。1940 年 4 月 30 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 42 人の出席があり、出席者は合計 43 人となっており、欠席者 19 人を含めた 62 人が招聘されていた。1941 年 5 月 7 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 45 人の出席があり、出席者は合計 46 人となっており、欠席者 18 人を含めた 64 人が招聘されていた。1942 年 4 月 15 日の会議には、この地域顧問会の会長のほか 45 人の出席があり、出席者は合計 46 人となっており、欠席者 17 人を含めた 63 人が招聘されていた<sup>11)</sup>。

ドイツ銀行のライン・ヴェストファーレン地域顧問会のケルン組織に所属するメンバーの数を営業報告書によって確認すると、1934 年の営業年度には 30 人、35 年の営業年度には 33 人、36 年の営業年度には 32 人、37 年と 38 年の営業年度にはそれぞれ 33 人、39 年と 40 年の営業年度にはそれぞれ 34 人となっていた<sup>12)</sup>。それゆえ、各会議での上述の招聘者数から考えると、1934 年から 40 年までの期間でみた場合、この顧問会メンバー以外の人物の会議への招聘は、少ない時 (35 年 6 月 6 日の会議) には 17 人であり、最も多い時 (38 年 3 月 31 日の会議) には 34 人であったことになる。

また 1934 年以前のライン・ヴェストファーレン地域顧問の会議や同地域顧問会を構成するケルン組織以外の会議についてもみておくことにしよう。1932 年までの年度のドイツ銀行の営業報告書では、このような組織は地域顧問会 (Bezirksbeirat) という名称ではなく地域委員会 (Ortsausschuss あるいは Landesausschuss) という名称で呼ばれていた<sup>13)</sup>。それもふくめてみておくと、例えば 1930 年 4 月 30 日の同行から K. キミッヒに宛てた手紙では、ラインおよびヴェストファーレンにおける委員会をライン・ヴェストファーレン地域委員会の名のもとにエルバーフェルト、エッセン、ケルンに新しく分割し、エッセンがオスナブルック・ミュンス



ター委員会を引き継いだとされている<sup>14)</sup>。ライン・ヴェストファーレン地域委員会のひとつであるエルバーフェルトでは1930年5月1日に会議が開催されているほか<sup>15)</sup>、その翌日の5月2日には同地域委員会のエッセンの会議が開かれている<sup>16)</sup>。ライン・ヴェストファーレン地域委員会のエッセンでは同年の10月7日にも会議が開催されているほか<sup>17)</sup>、エルバーフェルトでは、翌日の10月8日に会議が行われている<sup>18)</sup>。この地域委員会のエルバーフェルトでは、1931年4月30日に会議が開催されているほか<sup>19)</sup>、同年11月31日にも会議が行われている<sup>20)</sup>。またライン・ヴェストファーレン地域委員会のケルンでは、1932年12月20日に会議が開催されている<sup>21)</sup>。

地域顧問会に名称が変更されて以降のライン・ヴェストファーレン地域顧問会の会議について、ケルン組織以外の主要なものをみると、1938年11月4日には同地域顧問会のエッセンの会議が開催されている<sup>22)</sup>。またこの地域顧問会のエッセン—デュセルドルフ地域顧問会では、1939年4月5日<sup>23)</sup>、同年11月6日に会議（ケルン組織との合同会議）が開催されているが<sup>24)</sup>、その後も、40年4月29日<sup>25)</sup>のほか、41年12月9日にも会議（ケルン組織との合同会議）が開かれている<sup>26)</sup>。

さらに他の地域の顧問会についてもみておくと、フランクフルト—ヘッセン地域顧問会の主要な会議をみた場合、1938年4月29日<sup>27)</sup>、同年9月19日<sup>28)</sup>、39年6月22日<sup>29)</sup>、40年6月14日<sup>30)</sup>、41年6月5日<sup>31)</sup>、42年5月26日<sup>32)</sup>などに会議が開催されており、いずれも午前11時に開始の予定とされていた<sup>33)</sup>。ここでみた1939年から40年代にかけての時期には会議は1年に1度開催されているが、ドイツ銀行の取締役のK.E. ジッペルからH.J. アプスに宛てた1940年12月4日の文書でも、フランクフルト支店のR. フローヴァインとこの地域顧問会の会長であるG. フォン・シュニッツラーの間での協議において、この地域顧問会の会議は39年についてみるとこの時期には開催されていないこと、40年についても年に1回とすることで合意されていたことが伝えられている<sup>34)</sup>。

フランクフルト—ヘッセン地域顧問会の以上の会議のうち、参加メンバーの確認が可能な会議についてみると、1940年6月14日の会議には、同年5月15日時点の確認では、招聘された人数は30人であり、その内訳は顧問会メンバーが20人、ゲストが4人、フランクフルト支店の関係者が4人、フランクフルト以外の地域の担当者としてマインツ支店とカッセル支店の関係者がそれぞれ1人であった。欠席者は9人であり、出席者は21人であった。欠席者の内訳では、顧問会メンバーが7人、ゲストが2人であり、それゆえ、顧問会メンバーの出席者は13人であった<sup>35)</sup>。1941年6月5日の会議には、同年5月15日時点の確認では、招聘された人数は29人であり、その内訳は顧問会メンバーが21人、ゲストが3人、フランクフルト支店の関係者が3人、フランクフルト以外の地域の担当者としてマインツ支店とカッセル支店の関係者がそれぞれ1人であった。欠席者は6人であり、出席者は23人であった。

欠席者の内訳では、顧問会メンバーが 5 人、ゲストが 1 人であり、それゆえ、顧問会メンバーの出席者は 16 人であった<sup>36)</sup>。1942 年 5 月 26 日の会議には、同年 5 月 5 日時点の確認では、招聘された人数は 30 人であり、その内訳は顧問会メンバーが 20 人、ゲストが 4 人、フランクフルト支店の関係者が 3 人、フランクフルト以外の地域の担当者としてマインツ支店関係者が 2 人、カッセル支店の関係者が 1 人であった。欠席者は 5 人であり、出席者は 25 人であった。欠席者の内訳では、顧問会メンバーが 4 人、ゲストが 1 人であり、それゆえ、顧問会メンバーの出席者は 16 人であった<sup>37)</sup>。

またハノーファー・ブラインシュヴァイク・ヒルデスハイム地域顧問会をみると、そこでは、例えば 1939 年 5 月 9 日に会議が開催されているが、それには、ベルリンからは 3 人、ハノーファーからは 7 人の顧問会メンバーと 2 人の支店関係者、ブラウンシュヴァイクからは 8 人の顧問会メンバーと 1 人の支店関係者、ヒルデスハイムからは 5 人の顧問会メンバーと 1 人の支店関係者が参加しており、合計 27 人が出席しており、欠席は当日の不在者や休暇中の者も含め 12 人であり、本来招聘されるべき人数は 39 人であった<sup>38)</sup>。1941 年 5 月 14 日にも会議が開かれているが、それには、ベルリンからは 3 人、ハノーファーからは 6 人の顧問会メンバーと 2 人の支店関係者、ブラウンシュヴァイクからは 6 人の顧問会メンバーと 1 人の支店関係者、ヒルデスハイムからは 9 人の顧問会メンバーと 1 人の支店関係者が参加しており、合計 28 人が出席しており、欠席は病気の者も含め 13 人であり、本来招聘されるべき人数は 41 人であった<sup>39)</sup>。さらに 1942 年 12 月 4 日にも会議が開催されているが、それには、ベルリンからは 3 人、ハノーファーからは 9 人の顧問会メンバーと 2 人の支店関係者、ブラウンシュヴァイクからは 8 人の顧問会メンバーと 2 人の支店関係者、ヒルデスハイムから 8 人の顧問会メンバーと 1 人の支店関係者が参加しており、合計 33 人が出席しており、欠席は 4 人であり、招聘された人数は 37 人であった<sup>40)</sup>。

ハンブルク-ホルシュタイン地域顧問会の会議についてもみておくと、例えば 1935 年 5 月 21 日に会議が開催されているが、それには、22 人が出席しており、欠席者は 7 人であり、それゆえ招聘された人数は 29 人であった<sup>41)</sup>。その後、1935 年 11 月 7 日にも会議が開かれているが、そこでの出席者は 28 人、欠席者は 3 人であり、招聘された人数は 31 人であった<sup>42)</sup>。またヴェルテンベルク地域顧問の場合には、1941 年 8 月 23 日や 42 年 4 月 17 日の内部文書では、通常、春と秋の年に 2 回の会議であったとされている<sup>43)</sup>。

### III 地域顧問会の会議の内容とその特徴

つぎに、地域顧問会の会議の内容について、議事録が存在するドイツ銀行のライン・ヴェストファーレン地域顧問会を構成するケルンの会議を中心に考察を行うことにしよう。それとあ



わけて、議事録で確認が可能な他の地域の顧問会についてもみていくことにする。

### 1 ライン・ヴェストファーレン地域顧問会のケルン組織の会議とその内容

1934年7月26日の会議について——まず1934年7月26日の会議についてみると、それは10時45分に顧問会会長のG.フォン・ランゲンの開会の挨拶で始まり、新しいメンバーの紹介の後に、いくつかの講演が行われている。M.ユエルゲンスによる講演が最初に行われたが、そこでは、顧問会の目的は銀行と経済界との間の結びつきを築くことにあり、こうした目的のためには顧問会の問題提起や論評という方法でのみ実際の協力は行われうるので、ドイツ銀行は顧問会のこうした機能に感謝すると指摘されている。また地域の銀行の問題が取り上げられるなかで、こうした銀行の設立の妨げとなっている主要な困難な問題について指摘され、ラインラントには非常に大きな資本需要があるので地域の銀行の設立はそのために必要な資本の不足のために失敗することになるであろうということ、これに対して支店をもつ銀行は資本力をつねに本社に依拠することができるという利点をもつことが指摘されている。この講演者はまた、ケルンにおける経済状況について述べ、業務は一方では国内の景気の持続によって、他方でははるかに大きくなりつつある外国業務の収益力の減退によって特徴づけられることを確認している。

つづいて、1933年以降ドイツ銀行の取締役会のメンバーとなっていたK.キミツヒによってドイツの輸出入の状況に関する講演が行われ、外貨不足が発生していること、それとの関係で原料の強制的な統制が行われており、それによって代替原料の生産の問題が前面に出てくるようになっていることが指摘されている。また外国為替の問題も取り上げられ、ドイツの通貨の問題を取り上げるためには個々の国とのさまざまな為替決済協定に言及しそれを解明することが重要であることが指摘されている。さらにF.プロエネンは、キミツヒが扱った代替原料の生産の問題やユエルゲンスの報告と関連するテーマでの講演を行っている。M.クロウスも、とくにゴム生産の領域における代替原料の問題についての講演を行っている。

これらの講演で取り上げられた諸問題について、キミツヒは個別に言及し、とくに中核支店のより大きな自立性の問題との関連で、全信用の80%がすでに全国的な銀行の中核的な支店によって自律的に提供されており、地域の銀行が関係する残りの20%については信用委員会による承認が必要であることが指摘されている。またG.ゾルマッセンは、外国、とくにアメリカの経済ボイコットの重大性を指摘している。さらにE.トガールトは、経済的・政治的観点からザール地域における状況について述べ、目下の経済構造のもとではフランスとの関係において新しい関税制度によって根本的な転換がおこる限りでは、同地域のドイツへの編入は困難を生み出す公算が大きいことを指摘している。

以上の講演を経て、参加者の間での協議が行われた後に、顧問会会長による講演者への謝辞

が述べられている。こうして、10時45分に始まった会議は15時45分に終了している<sup>44)</sup>。

1935年1月9日の会議について——つぎに1935年1月9日の会議についてみると、この会議は10時40分に始まり、いくつかの講演が行われている。最初の講演者であるM. ユエルゲンスは、前回の会議以降の銀行業務についての報告を行っており、この期間の関心事は立法、組織および一般的な銀行政策の領域にあったとしている。また、景気の上方向と雇用の拡大のもとで、さらに産業における在庫の減少の結果、信用の要求は低下したが、そのことは債務者の減少、債権者の増加という結果となっていることが指摘されている。

つづいてJ.B. ラスが株式市場に関する説明を行ったうえで、ラインの3つの証券取引所のデュッセルドルフへの統合について述べ、ケルンにとっては証券取引所を失うことは非常に大きな打撃であるとしている。また昨年の株式市場の状況および新しい年の証券業務の展望についても、報告が行われている。

K. キミツヒからも株式市場の状況などの報告が行われたが、経済に関しては、その最近の多くの法律や公布された規定によって非常に困難な状況になっていることが指摘された。また個々の国とのさまざまな為替決済協定によって、バーター取引は制限されることになるだろうという見通しが説明された。こうした為替決済協定のさらなる推移については、ドイツへの外国の販売の緊急性が非常に大きいために商品貿易の困難を甘受することになるかどうかという問題が重要となるであろうと指摘されている。

またP. クレックナーからは、近年の経営者の役割が失業者数の削減にあったことが指摘され、そこでは通常ではない道を歩むことになるであろうという指摘がなされている。1935年には自国の原料でやっていくことが期待されうること、石炭と鉄では状況は比較的有望であること、石炭と鉄の収益性の問題に関しては、それらが明白な大量生産の産業であることが前提となるが、価格は非常に堅調であり、外国では一部で損失を生んではいるものの、賃金・給料は一部では低いと指摘されている。

さらにブレヒトが、褐炭産業におけるガソリン合成やIG フェルベンのロイナ法、フィッシャ・トロップ法といった化学製法などについての報告を行っているほか、G. ゴルマッセンがアメリカ旅行に関する印象について報告を行っている。最後に、F. フォン・ショルレマーがワイン製造に関する報告を行った。

これらの講演を経て、参加者の間での協議が行われた後に、顧問会会長からの講演者への感謝の言葉が伝えられている。10時40分に始まった会議は、3時間後の13時40分に終了している<sup>45)</sup>。

1935年6月17日の会議について——また1935年6月17日の会議についてみると、この

会議も同年の1月9日の会議と同様には10時40分に始まり、顧問会会長による開会の挨拶、新しく会議に参加したメンバーの紹介、会議の報告や討議の内容に関する守秘義務などの説明の後、いくつかの講演が行われている。まずM.ユエルゲンスが最初の講演において、経済の躍進の一方で、売り上げの増大と同じ程度には収益の向上は現れていないこと、証券業務は改善してきたのに対して外国為替業務はほぼ完全に減退しており、コンソーシアム業務や証券発行業務についても同様であると指摘している。またケルンにおける全般的な状況は多様であるとして、つぎの点の言及が行われている。すなわち、鉄道交通は増大してきたのに対して水運交通はかなり減少したほか、ガス、水道、電力の消費はわずかな増大にとどまっていた。失業者数は近隣の都市よりもはるかに多く、破産や和解手続きは前年の時期の水準を超えている。産業のうち、機械製造業、電線産業、自動車産業は好調であるのに対して、金属加工業は原料不足に悩んでいたとされている。

つづいてK.キミツヒが、銀行業の状況はうらやむような状態にはないこと、利子や手数料は再び低下していること、全般的な経済状況では国家景気が支配しており、失業者はかなり減少し、生産能力、売上、収益も向上の見通しであり、流動性も改善してきたことを報告している。しかし、公的な注文なしには経済はよい成果を達成しないという限りでは、健全ではないとしている。また国家や州、地方自治体の債務についても言及されたほか、貿易では国内の満足すべき景気とは対照的な状況にあり、その近年のドイツの輸出の減少は本質的にはヨーロッパ西部の諸国への輸出の減少によるものであったと指摘されている。外国為替決済協定はかなり偏狭なものであり、それによって世界の貿易はひどい打撃を受けており、平価の切り下げが当該国においてかなりの輸出の増大をもたらしてきたが、失業者数を減少させることにはならなかったとされている。

またO.ブリュエゲルマンが繊維産業の問題、とくに売上の状況、原料供給および組織の問題について報告したほか、ライン針製作所のW.ヘッセが自らの部門に関する概観を述べている。つづいて、L.フォン・ボッヒが、窯業の状況の説明を行っており、この産業では家庭用と建築用とが区別されなければならないとした上で、それぞれの状況について報告を行っている。

これらの講演をふまえて、キミツヒが再び言及しており、日本の競争相手に関して、それがドイツのみならずヨーロッパのすべての諸国にとって脅威となってきたことを指摘している。以上の講演をふまえた、参加者の間での協議が行われた後に、10時40分に始まった会議は、2時間30分後の13時10分に終了した<sup>46)</sup>。

1935年11月27日の会議について——1935年6月17日に行われた会議につづく同年11月27日の会議をみると、そこでも、開始は10時40分となっており、いくつかの講演が実施さ

れている。地域顧問会の会長である G. フォン・ランゲンからは、その会議の内容が極秘扱いであるという前提でのみ自由でオープンな協議が可能となるので極秘扱いで臨むべきことが、講演の開始の前に参加者に伝えられている。

最初の講演者は M. ユエルゲンスであり、彼は、一般的に鉄工業や金属加工工業は好調であり、例えば褐炭業のような原料もわずかの改善を示していることを報告している。これに対して、採石業では、国内やオランダの道路建設のための大きな注文の欠如のゆえに、状況はそれまで依然として満足いくものではなかったとされている。消費財産業、とくに繊維産業はさまざまな諸困難に直面しており、それは前年の比較的大規模な在庫の存在や購買力の低下によるものであったが、それに加えて、繊維の加工と販売の最大部分がユダヤ人の手によるものであったという事情も関係していた。彼はまた、証券業務は 1935 年の 7 月までは好調であったが、国庫証券の引き受け後はかなり静まってきたこと、国庫証券の引受の成果はかなり満足いくものであったこと、輸出入の促進の利害のなかでドイツ銀行はパートナー取引の仲介のために商品貿易部を設置したことを報告している。

つづいて H. タッケの講演が行われているが、そこでは、ジーガーラントの状況が報告され、前回の報告のさいに経済状況はかなり悪化したことが指摘されている。また数字などを使った労働市場の状況に関する報告が行われているほか、個々の産業部門の状況や動向に関する概観が伝えられている。

また K. キミツヒは、銀行全体や産業全般、経済および商業に関する報告を行ったほか、ドイツ銀行が経済の最大の債権者であること、しかし信用の量は生産の拡大にもかかわらず増大していないこと、新しい信用はしばしば長期的な性格のものであることなど、銀行をとりまく状況についての説明を行っている。あわせて、輸出が十分に増大していないために産業は政府の注文なしには存続できない状況にあり、他方では輸出があらゆる手段でもって促進されることが絶対的に必要であることも指摘されている。さらに国家財政や貿易の状況についても報告が行われている。最後に、キミツヒは、経済問題全体に対しては鋭い批判的な立場が絶対的に必要であるという認識を伝えている。

さらに F. フォン・ショルレマーがワイン市場の状況に関する短い概観を伝えたほか、F. モンハイムはチョコレート産業に関する報告を行っている。それにつづいて、A. シュッテが輸出業務の困難の増大についての報告を行った。

以上のように、いくつかの講演によって、多面的な領域にわたっての報告、それを受けての協議が行われている。1935 年 6 月 17 日の会議の場合と同様に、10 時 40 分に始まった会議は、2 時間 30 分後の 13 時 10 分に終了している<sup>47)</sup>。

1936 年 5 月 5 日の会議について——さらに 1936 年 5 月 5 日の会議をみると、そこでも、

開始は10時40分となっており、顧問会の会長の開催の挨拶につづいて、いくつかの講演が実施されている。まずJ.B. ラスが、ドイツ銀行のケルン支店の業務に関する報告を行っているが、あわせて、商業と工業は依然として国内では好況のなかにあったが、中部ドイツの経済地域と比べるとかなり遅れていたことが報告されている。鉄工業および金属加工業は好調であり、個々の諸部門において生産はなお強力に増大するであろうという見通しのほか、繊維産業は原料不足などに直面していること、卸売はケルンに関しては比較的満足いく状況にあり、一部では前年に比べ20%の売り上げ増大が達成されていることが指摘されている。失業者は5万人を下回り、それゆえ、前年よりもかなり良くなったほか、破産件数もさらに減少したとされている。ドイツ銀行のケルンの業務は前年よりも好調であり、約6%の売り上げの増大、口座数の31,000から31,730への増加がみられた一方で、外国為替や原料の問題が原因となる諸問題が顕著になっていること、株価が問題となる限りでは、証券業務は明確な上昇の動きにあったことが説明された。

つづいてE. マルチンがザール地域における経済状況について報告しており、1935年3月の同地域のドイツへの再編入による突然の関税境界の移動の結果、この地域は困難な諸問題に直面していること、同地域のドイツへの復帰によって販売や購買に根本的な変化がおこっていること、1870年以降に発展してきた経済界の層の半分が切り離されたという点では、ザールとフランスの間の大規模な輸出入の部分をドイツ地域において短期のうちに埋め合わせなければならないことが指摘されている。こうした説明の後、個々の経済部門において発生している諸問題やその解決についての詳しい報告が行われている。そこでは、同地域のドイツへの再編入以降、就業者数はかなり改善し、失業者数は35年2月末の50,000人から3月末には28,000人にまで減少したこと、しかし賃金の上昇、社会保険、輸出助成金、失業保険、増税などのかたちでの企業の支出の増大のもとで、価格形成における十分な調整が達成されることなく、企業の収益性はまったく低いものであったことが明らかにされている。また支店の業務に関して、フランスの銀行の閉鎖によって業務のかなりの増大を経験したが、他方では例えば外国為替業務によって損害が発生したことが指摘されている。

またK. キミツヒは、ドイツ銀行全体の状況について報告しており、合同製鋼との同行の大きな業務に関する説明を行ったほか、軍備拡張の動きをめぐって、全般的な軍備縮小のための努力が再び開始されるときには、健全な金融経済の利害が保たれるとしている。国家の短期の公債は銀行、保険などによってしか調整されえないという状況は持続的には維持されえないものであり、そこでは、国家の信用の利害のなかで自由な資金市場に戻らなければならないとされている。また国家景気はさらに持続しており、アウトバーン、軍備拡張などによって、もしかすると50%が国家支出によるものである経済の発展がおこっており、目下のところ国家の注文が不可欠のものとなっているが、それはある程度のところで途絶えざるをえない。その

結果、世界市場との結びつきは絶対的に必要であるが、それにもかかわらず、貿易は依然として控えめであった。また原料の世界市場価格のかなりの上昇という状況が指摘された上で、原料統制の問題について、大きな諸困難にもかかわらず、必要な量は依然としてある程度調達されていること、しかし原料調達においては緊急に一定量の原料が必要となった場合には、追加的な支払いが一部ではかなり増大することが指摘されている。彼は、通貨問題にも触れて、イギリスのポンドの切り下げのもとでライヒスマルクがそれに追随しないことは誤りであると指摘している。

さらに K. グロッセがドイツの製鉄業について他国との比較のなかで短い報告を行っている。1870/71 年の普仏戦争以降のこの産業の急速な発展についての説明がなされた上で、残念ながら輸出の一層の減少を覚悟せざるをえない一方で、ロシアと日本が近いうちに世界市場における真の競争相手となるであろうという見通しを指摘している。

最後の講演者は F. プロエネンであり、彼は、繊維産業の状況を報告しており、この産業の生産は 50 億 RM にのぼっているのでドイツ産業のなかで非常に重要な位置を占めていること、しかし生産においてはもっぱら外国の原料に依存していることが指摘されている。彼は、ドイツの国内経済にとって必要な原料を確保するためには輸出が緊急に必要であるという、キミツヒによってすでになされた説明を強調しており、繊維産業は外国の市場において大きな諸困難に対処しなければならないと指摘している。

このように、数人の人物による講演が多面的な領域にわたって行われ、それを受けての協議が行われている。10 時 40 分に始まった会議は、2 時間 40 分後の 13 時 20 分に終了している<sup>48)</sup>。

**1936 年 11 月 11 日の会議**について——また 1936 年 11 月 11 日の会議をみると、そこでも、開始は 10 時 40 分であった。他の会議と同様に、地域顧問会の会長の開催の挨拶につづいて、いくつかの講演が実施されている。

最初の講演として J.B. ラスによるドイツ銀行のケルン地域の業務に関する報告が行われている。主に小口の信用が維持されているが、ますます前面に出てきた新規の銀行信用では、たいいてい、既存の担保の承諾に基づく短期のつなぎ融資が重要であったとされている。とくにその近年に好調な発展をとげた証券業務についても詳しい報告がなされたほか、場合によっては相場の形成にもある程度の影響をおよぼしうる金融市場の狭隘化がますます覚悟されなければならないことが指摘された。

つづいて K. キミツヒがドイツ銀行全体の業務について報告を行った。そこでは、1936 年上半期の状況は満足いくものであり、下半期にはよりよい成果が期待されること、貸借対照表の数字に関する前回の報告との対比での説明、同行の最も重要な業務について、とくに合同製



鋼の再民営化、すなわち国の所有からの1億1,500万株の株式の引き受けについての報告が行われている。また株価や国家の債務の問題が取り上げられ、公債の整理の問題が依然として存在していることが伝えられた。労働市場に関する報告も行われており、この市場はとくに公的資金によって活発になっているが、ことに専門労働者の失業者が大きく減少しており、機械工の失業者は80万人からわずか3万人になったと指摘されている。さらに通貨の切り下げの問題に関して、ドイツでの立場は維持されているが、それにもかかわらず、同国においてもこれに関するさまざまな見解が示されていること、通貨切り下げの最も重要な前提条件は与えられていないことから、そのデメリットははるかに重要であるとされている。また原料供給についても言及がなされ、ことに金属の供給に関して、世界全体の軍備の拡張の波が価格のかなりの上昇をもたらしていることが指摘されている。そのほか、食糧事情、穀物供給、脂肪、石油生産、合成ゴム生産の問題などが取り上げられた。なかでも、石油生産にかかわって、1936年からの第2次4ヵ年計画の実施後には500万トンの石油の生産が可能になるという見通しやドイツ銀行はすでに5つの設備への資金の供給を行ってきたことを指摘している。また人工のゴムの生産ははるかに不利な状況にあり、合成ゴムのブナは天然製品の6倍もの価格であり、コストの問題が異常なほどに重大であるとされている。キミツヒは、第2次4ヵ年計画に関しては、その実施は大きな犠牲のもとでのみ可能であろうということは自明であり、とくに産業はこの期間を経済戦争の時代とみなさなければならないと指摘している。

またE. エンゲルスが繊維産業についての講演を行っており、この産業はあまり望ましい状況にはないこと、原料問題が主要な懸念であること、支払い能力は強力に低下していることなどが報告されている。さらにC. オエルテルが保険業の株式会社のナチス国家に対する位置について報告した。そこでは、保険業の株式会社、民間の相互保険会社と公的な保険との間の競争が問題となることが指摘されている。

以上の講演の後、会議の参加者による協議のほか、K. キミツヒによって、この地域顧問会の会長であるG. フォン・ランゲンが40年におよぶドイツ銀行の監査役会あるいは管理評議会（Verwaltungsrat）への所属ののちにその職の辞任の決定をしたことが会議の参加者に伝えられ、ランゲンへの感謝の意が示された。キミツヒの暖かい言葉へのランゲンからの感謝の意が示されなどのやりとりの後、会議は終了している<sup>49)</sup>。

1937年4月20日の会議について——1936年11月11日の会議につづいて開催された37年4月20日の会議をみると、開始は10時30分であり、前回の会議よりも10分はやくに始まっている。地域顧問会の会長の開催の挨拶が行われ、今回の会議は、この間に完全に実施された再民営化という、ドイツ銀行にとってとくに重要な兆候のもとに開催されるものであることが指摘されている。それにつづいて、いくつかの講演が実施されている。

まず J.B. ラスが最初の講演者として、ライン地域における整理統合の過程が一定の進展をみたこと、国際的な価格の上昇、世界市場における商品の逼迫や深刻な不足のもとでこの地域の重要な輸出産業は浮揚が期待されること、公的な活動の一層強力な実施や軍関係の建設の大規模な開始によって強力な発展をとげてきた業務部門への関与が銀行の中間金融によって可能となることが指摘されている。ドイツ銀行全体の枠のなかではライン地域は有利な成果を収めてきたとされている。

つづいて K. キミツヒは、ドイツ銀行は前年の営業年度には 4% から 5% への増配を実施したことの報告のほか、貸借対照表の数値についての個別の説明、とくに 280 万 RM の準備金の設定による 2,800 万 RM への準備金の額の増大の指摘が行われている。その額は株式資本金の 25% に達しており、この準備金は近隣の銀行においてよりもはるかに大きなものであったとされている。彼はまた、資本参加、コンソーシアム業務や特別業務からの利益と同様に、証券業務、外国為替業務、両替業務、利札業務の利益は銀行内に蓄積されるのではなく前もって銀行の内部の強化のために利用されていたことを強調している。そのことは、ドイツ銀行の株式を第 1 次大戦前のような高価格のもの、すなわち一流の投資証券にするためには絶対的に必要なことであったとしている。また同行の完全な再民営化についても簡単に述べられたほか、業務状況の報告が行われている。そうしたなかで、株式市場は以前のような重要性の一部しかもたなくなっており、もはやかつてのようには経済状況を映す鏡とはなっていないことが指摘されたほか、全般的な経済状況についても詳しく報告された。ナチスの第 2 次 4 ヵ年計画に関して、輸出にも輸入にも敵対的なこの計画からはよりよい供給が期待されたが、そこで達成される成果は、短期の債務がどの程度整理されるか、振替貨幣がどの程度生み出されるかということにかかっており、ドイツ銀行はこの計画の枠のなかで投資のための信用をすすんで用意してきたとしている。そのほか、合成ゴムのブナの生産についての状況、鉄や金属の市場における困難な状況、鉛石供給の状況なども報告された。

また E. トガールトによる講演では、鉄鋼業の状況に関する詳細な報告が行われており、各国の生産に関する数値を用いての説明がなされ、大きな相違が一連の諸国における鉄鋼生産の新たな開始によって、またいくつかの他の諸国における異常な増大によってひきおこされていることが指摘された。それにつづいて、さらに A. ランゲンは、自動車製造の状況についての報告を行っている。

これらの講演につづく議論において、E. エンゲルスは繊維産業に関して、また G. ゴルマッセンは石油産業に関しての説明を行っている。以上の講演とそれを受けての議論を経て、会議は終了している<sup>50)</sup>。

(未 完)

## &lt;注&gt;

- 1) V.I. Lenin, *Империализм, как высшая стадия капитализма: популярный очерк*, 2-е изд., Москва: Партийное изд-во, 1932 [聴濤弘訳『帝国主義論』新日本出版社, 1999年].
- 2) 前川恭一『日独比較企業論への道』森山書店, 1997年, 58ページ。
- 3) Vgl. H. Pfeiffer, *Die Macht der Banken. Die personellen Verflechtungen der Commerzbank, der Deutschen Bank und der Dresdner Bank mit Unternehmen*, Campus, Frankfurt am Main, 1993, S.158-159, H. Pfeiffer, *Großbanken und Finanzgruppen. Ausgewählte Ergebnisse einer Untersuchung der personellen Verflechtungen von Deutscher, Dresdner und Commerzbank*, *WSI Mitteilungen*, 39.Jg, Nr.7, Juli 1986, S.477, H. Pfeiffer, *Das Netzwerk der Großbanken. Personelle Verflechtungen mit Konzernen, Staat und ideologischen Apparaten*, *Blätter für deutsche und internationale Politik*, 31.Jg, Heft 2, 1986, S.164, K.-H. Stanzick, *Der ökonomische Konzentrationsprozeß*, G. Schäfer, C. Nedelmann (Hrsg.), *Der CDU-Staat. Analysen zur Verfassungswirklichkeit der Bundesrepublik*, Bd.I, 2.Aufl., Suhrkamp, Frankfurt am Main, 1969, S.72, H.O. Eglau, *Wie Gott in Frankfurt: Die Deutsche Bank und die deutsche Industrie*, 3.Aufl., Econ Verlag, Düsseldorf, 1990, S.128 [長尾秀樹訳『ドイツ銀行の素顔』東洋経済新報社, 1990年, 96ページ].
- 4) 例えばドレスナー銀行では, 顧問会の機関は19世紀に達する伝統にまでさかのぼる。1895年にはプレーメンに, 1898年にはハノーファーおよびロンドンに地域委員会 (Localcomites) が設置されている。同行は, 1930年代半ばには, 全ドイツ地域におよぶ全部で19の地域委員会 (Landesausschuss) にまで拡大させたが, 今日の地域顧問会の大多数は, 同行の第2次大戦後の3つの継承銀行への11の部分的な銀行の集中後, 1952/53年に新たに設置されたものである。Vgl. H.G. Meyen, *120 Jahre Dresdner Bank. Unternehmens-Chronik*, Dresdner Bank AG, Frankfurt am Main, 1992, S.331。ドイツ銀行の場合でも, 「地域顧問会」(Bezirksbeirat) ではなく「地域委員会」(OrtsausschussあるいはLandesausschuss) という名称が使用されていた時期もみられた。同行の *Geschäftsbericht* を参照。
- 5) H. Pfeiffer, *Die Macht der Banken*, D. Schönwitz, H.-J. Weber, *Unternehmenskonzentration, Personelle Verflechtungen und Wettbewerb. Eine Untersuchung auf der Grundlage der hundert größten Konzerne der Bundesrepublik Deutschland*, Nomos Verlagsgesellschaft, 1.Aufl., Baden-Baden, 1982, D. Schönwitz, H.-J. Weber, *Indirekte personelle Verflechtungen zwischen Großunternehmen über Organe der Geschäftsführungskontrolle*, *Konjunkturpolitik*, 27.Jg, Heft 1, 1981, Monopolkommission, *Fortschreitenden Konzentration bei Großunternehmen: Hauptgutachten 1976/77* (Hauptgutachten II), Nomos, Baden-Baden, 1978, R. Ziegler, *Das Netz der Personen- und Kapitalverflechtungen deutscher und österreichischer Wirtschaftsunternehmen*, *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, 36.Jg, Heft 3, 1984, H.O. Eglau, a.a.O., M. Gerhardt, *Industriebeziehungen der westdeutschen Banken*, Sandler, Frankfurt am Main, 1982 [飯田裕康監修, 相沢幸悦訳『西ドイツの産業資本と銀行』亜紀書房, 1985年], J. Böhm, *Der Einfluß der Banken auf Großunternehmen*, S+W, Steuer- und Wirtschaftsverlag, Hamburg, 1992, A. Pfannschmidt, *Personelle Verflechtungen über Aufsichtsräte. Mehrfach-Mandate in deutschen Unternehmen*, Gabler, Wiesbaden, 1993, J.R. Cable, *The Bank-Industry Relationship in West Germany: Performance and Policy Aspects*, J. Schwalbach (Hrsg.), *Industry Structure and Performance*, Edition Sigma, Berlin, 1985, B. Balsmeier, H. Peters, *Personelle Unternehmensverflechtung und Vorstandsgehälter*, *Zeitschrift für Betriebswirtschaft*, 79.Jg, Nr.9, September 2009, J. Beyer, *Managerherrschaft in Deutschland? "Corporate governance" unter Verflechtungsbedingungen*, Westdeutscher Verlag, Opladen, 1998, J. Beyer, *Deutschland AG a.D. Deutsche Bank, Allianz und das Verflechtungszentrum des deutschen Kapitalismus*, W. Streeck, M. Höpner (Hrsg.), *Alle Macht dem Markt? Fallstudien zur Abwicklung der Deutschland AG*, Berlin, New York, 2003, C.E. Decher,

*Personelle Verflechtungen im Aktienkonzern. Loyalitätskonflikt und qualifizierter faktischer Konzern*, Verlag Recht und Wirtschaft, Heidelberg, 1990, J. Edwards, K. Fischer, *Banks, Finance and Investment in Germany*, Cambridge University Press, Cambridge, 1994, P. Windorf, *Corporate Networks in Europe and the United States*, Oxford University Press, New York, 2002, P. Windolf, *The Corporate Networks in Germany, 1896-2010*, T. David, G. Weserhuis (eds.), *The Power of Corporate Networks. A Comparative and Historical Perspective*, Routledge, New York, 2014, K. Krenn, *Alle Macht den Banken? Zur Struktur personaler Netzwerke deutscher Unternehmen am Beginn des 20. Jahrhunderts*, Springer, Wiesbaden, 2012, R. Ziegler, D. Bender, H. Biehler, *Industry and Banks in the German Corporate Network*, F.N. Stockman, R. Ziegler, J. Scott (eds.), *Networks of Corporate Power. A Comparative Analysis of Ten Countries*, Polity Press, Cambridge, 1985 [上田義朗訳『企業権力のネットワーク 10 カ国における役員兼任の比較分析』文眞堂, 東京, 1993年]。

なお最新の邦語文献の研究成果として, 山崎敏夫『ドイツの企業間関係——企業間人的結合の構造と機能——』森山書店, 2019年, 山崎敏夫「独占資本主義への移行期におけるドイツ大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第58巻第4号, 2019年11月, 山崎敏夫「第1次大戦後のインフレーション期におけるドイツ大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第58巻第5号, 2020年1月, 山崎敏夫「ナチス期におけるドイツ大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第58巻第6号, 2020年3月, 山崎敏夫「1965年株式法以前の時期におけるドイツ3大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第57巻第3号, 2018年9月, 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期におけるドイツ3大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第57巻第4号, 2018年11月, 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期におけるドイツ鉄鋼業企業8社の役員兼任の構造——他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第57巻第5号, 2019年1月, 山崎敏夫「ドイツ化学産業, 電機産業, 自動車産業における主要企業の役員兼任の構造——1965年株式法以後の時期における他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第57巻第6号, 2019年3月, 山崎敏夫「ドイツ大企業の役員兼任の構造——”Handbuch der Grossunternehmen 2017”に基づく銀行業, 保険業, 鉄鋼業, 化学産業, 電機産業, 自動車産業の分析——」『立命館経営学』(立命館大学), 第59巻第2号, 2020年7月, 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期のドイツ銀行業, 電機産業および自動車産業における主要企業の監査役兼任ネットワークの構造」『立命館経営学』(立命館大学), 第58巻第2号, 2019年7月, 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期のドイツ鉄鋼業, 化学産業における主要企業の監査役兼任ネットワークの構造」『立命館経営学』(立命館大学), 第58巻第3号, 2019年9月, 山崎敏夫「ドイツにおける監査役兼任による企業間人的ネットワークと『金融資本』」『比較経営研究』, 第44号, 2020年3月, 山崎敏夫「ドイツ大銀行の企業間人的結合の史的分析——ドイツ銀行の役員兼任と監査役兼任ネットワーク——」『比較経営研究』, 第45号, 2021年10月, 山崎敏夫「独占資本主義への移行期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第59巻第3号, 2020年9月, 山崎敏夫「第1次大戦後のインフレーション期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第59巻第4号, 2020年11月, 山崎敏夫「ナチス期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第60巻第1号, 2021年5月, 山崎敏夫「1965年株式法以前の時期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第60巻第2号, 2021年7月, 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第60巻第3号, 2021年9月を参照。

6) 代表的な研究成果として, R. Ahrens, J. Bähr, *Jürgen Ponto. Bankier und Bürger. Eine Biografie*,

- C.H. Beck, München, 2013, R. Ahrens, *Bankenmacht im Aufsichtsrat? Der Bankier Jürgen Ponto und die Kontrolle deutscher Großunternehmen in den 1970er Jahren*, R. Ahrens, B. Gehlen, A. Reckendrees (Hrsg.), *Die „Deutschland AG“. Historische Annäherung an den bundesdeutschen Kapitalismus*, 1.Aufl., Klartext-Verlag, Essen, 2013, F. Sattler, *Ernst Matthiensen (1900-1980). Ein deutscher Bankier im 20. Jahrhundert*, Eugen-Gutmann-Gesellschaft, Berlin, 2009, L. Gall, *Der Bankier Hermann Josef Abs. Eine Biographie*, C.H. Beck, München, 2004, 山崎, 前掲書, 第6章, 山崎敏夫「ドイツにおける役員兼任の役割と意義 (I)」『立命館経営学』(立命館大学), 第60巻第4号, 2021年11月, 山崎敏夫「ドイツにおける役員兼任の役割と意義 (II)」『立命館経営学』(立命館大学), 第60巻第5号, 2022年1月を参照。
- 7) 山崎, 前掲書, 補論1, H.O. Eglau, *a.a.O.*, S.128, H. Pfeiffer, *Das Netzwerk der Großbanken*, H. Pfeiffer, *Die Macht der Banken*, H. Pfeiffer, *Das Imperium der Deutsche Bank*, Campus, Frankfurt am Main, 1987, H.E. Büschgen, *Die Großbanken*, Fritz Knapp Verlag, Frankfurt am Main, 1983, N. Koubek, *Personelle und institutionelle Verbindung der Bereiche “Produktion” und “Kapital” in der Wirtschaftsgesellschaft der BRD*, *WWI-Mitteilungen*, 24.Jg, Heft 8/9, 1971, F. Schwarz, *Die Deutsche Bank. Reise auf tönerner Füßen*, Campus, Frankfurt am Main, New York, 2003, A. Gottschalk, *Der Stimmrechtseinfluß der Banken in den Aktionärversammlungen von Großunternehmen*, *WSI Mitteilungen*, 41.Jg, Nr.5, Mai 1988, *Die Deutsche Bank—Zentrum des deutschen Finanzkapitals*, *D.W.I. Bericht*, 12.Jg, Nr.15, August 1961, 相沢幸悦『欧州最強の金融帝国 ドイツ銀行』日本経済新聞社, 1994年, 95-96 ページ, 相沢幸悦『西ドイツの金融市場と構造』東洋経済新報社, 1998年, 246 ページなどを参照。
- 8) 山崎, 前掲書, 補論1, 補論2, 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期のドイツにおける顧問会制度による企業間人的結合の構造——銀行顧問会と産業企業の顧問会による人的結合の分析——」『立命館経営学』(立命館大学), 第58巻第1号, 2019年5月を参照。
- 9) 山崎敏夫「第2次大戦前のドイツ大銀行の顧問会制度による企業間人的結合——ナチス期のドイツ銀行の事例——」『立命館経営学』(立命館大学), 第59巻第1号, 2020年5月。
- 10) 例えば, *Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, Geschäftsbericht 1934*, S.12-14, *Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, Geschäftsbericht 1935*, S.12-15, *Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, Geschäftsbericht 1936*, S.26-29, *Deutsche Bank, Geschäftsbericht für 1937*, S.30-33, *Deutsche Bank, Geschäftsbericht für 1938*, S.29-31, *Deutsche Bank, Geschäftsbericht für 1939*, S.30-33, *Deutsche Bank, Geschäftsbericht für 1940*, S.30-33 などを参照。
- 11) *Die Schrift über der Sitzung des Kölner Beirates vom 26.Juli 1934, Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, *Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Donnerstag, dem 26.Juli 1934.*, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, *Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Mittwoch, dem 9.Januar 1935.*, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, *Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Montag, den 17.Juni 1935.*, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, *Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Mittwoch, dem 27.November 1935.*, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, *Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Dienstag, dem 5. Mai 1936*, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, *Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Mittwoch, dem 11. November 1936.*, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, *Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale*



- Köln am Dienstag, den 20. April 1937., S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der DEUTSCHEN BANK FILIALEN KÖLN am Donnerstag, dem 28.Oktober 1937., S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der DEUTSCHEN BANK FILIALEN KÖLN am Donnerstag, dem 31.März 1938., S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der DEUTSCHEN BANK FILIALEN KÖLN am Mittwoch, den 2.November 1938., S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der DEUTSCHEN BANK FILIALEN KÖLN am Dienstag, dem 30.April 1940., S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der DEUTSCHEN BANK FILIALEN KÖLN am Mittwoch, dem 7.Mai 1941., S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank Filialen Köln am Mittwoch, dem 15.April 1942., S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates am Donnerstag, dem 31.März 1938 vormittags 10 1/2 Uhr im Geschäftshause der Bank zu Köln, An den Dominikanern 15-27. (12.3.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates am Mittwoch, dem 2. November 1938 vormittags 10 1/2 Uhr im Geschäftshause der Bank zu Köln, an den Dominikanern 15-27. (11.10.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates am Dienstag, dem 30. April 1940 vormittags 10 1/2 Uhr im Geschäftshause der Bank zu Köln, an den Dominikanern 15-27. (10.4.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief an die Direktion der Deutschen Bank Filiale Köln über die Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates am Dienstag, dem 30. April 1940 (15.4.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates am Mittwoch, dem 7.Mai 1941 nachmittags 3 1/2 Uhr im Geschäftshause der Bank zu Köln, an den Dominikanern 15-27. (16.4.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates am Mittwoch, dem 15. April 1942 vormittags 12 Uhr im Geschäftshause der Bank zu Köln, an den Dominikanern 15-27., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 12) Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1934*, S.12-13, Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1935*, S.12-13, Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1936*, S.26-27, Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1937*, S.30-31, Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1938*, S.29, Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1939*, S.30-31, Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1940*, S.30-31.
- 13) 例えば, Deutsche Bank, *Einunddreissigster Geschäfts-Bericht des Vorstandes der Deutschen Bank für die Zeit vom 1.Januar bis 31.Dezember 1900*, Deutsche Bank, *Vierundvierzigster Geschäfts-Bericht des Vorstandes der Deutschen Bank für die Zeit vom 1.Januar bis 31.Dezember 1913*, Deutsche Bank, 58. *Geschäftsbericht des Vorstandes der Deutschen Bank für das Jahr 1927*, S.9-15, Deutsche Bank, *Jahresbericht über des 59.Geschäftsjahr 1928*, S.9-14, Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1932*, S.33-40 などを参照。
- 14) Der Brief von der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft an Herrn Dr. Karl Kimmich (10.4.1930), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
- 15) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Carl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Elberfeld der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft (8.4.1930), *Historisches*



- Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
- 16) Die Schrift über die Einladung für Herrn Bankdirektor Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Essen der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft (11.4.1930), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
  - 17) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Essen der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft (26.9.1930), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
  - 18) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Elberfeld der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft (24.9.1930), *Archiv Historisches der Deutschen Bank*, P00042.
  - 19) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Erberfeld der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft (24.9.1930), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
  - 20) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Erberfeld der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft (30.9.1931), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
  - 21) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Köln der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft (12.11.1932), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
  - 22) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Essen der Deutschen Bank (13.10.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00037.
  - 23) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Essen-Düsseldorf der Deutschen Bank (14.3.1939), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00037, Der Brief vom Rheinisch-Westfälischer Beirat der Deutschen Bank an Herrn Hermann J. Abs (11.3.1939), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042, Der Brief an die Direktion der Deutschen Bank Filiale Köln über die Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates am 5.April 1939 (14.3.1939), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00042.
  - 24) Der Brief über die Einladung für Herrn Direktor Hermann J. Abs zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Beirates Essen-Düsseldorf gemeinsam mit dem Beirat Köln am 6.11.1940, vormittags 10 Uhr im Geschäftshause der Bank zu im Industrieklub Düsseldorf, Elberfelderstr.5 (21.10.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief vom Sekretariat Hermann J. Abs an die Deutschen Bank Filiale Essen (4.11.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
  - 25) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Essen-Düsseldorf der Deutschen Bank (10.4.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00037.
  - 26) Die Schrift über die Einladung für Herrn Dr. Karl Kimmich zur Sitzung des Rheinisch-Westfälischer Ausschusses, Essen-Düsseldorf der Deutschen Bank (17.11.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00037, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zur Gemeinschafts-Sitzung der Beiräte Essen-Düsseldorf und Köln am Dienstag, dem 9. Dezember 1941 vormittags 10 1/2 in den Räumen des Industri-Club Düsseldorf, Elberfelderstr.5 (21.11.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
  - 27) Der Brief von der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) an Herr Hermann J. Abs (8.14.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) über die Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am 29.April 1938 (11.4.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann

- J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am 29. April 1938, vormittags 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18 (11.4.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 28) Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Montag, den 19. September 1938 (8.9.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 29) Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Donnerstag, den 22. Juni 1939, vorm. 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18. (3.6.1939), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief an Herrn Hermann J. Abs (17.6.1939), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 30) Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Freitag, den 14. Juni 1940 (15.5.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, Der Brief an Herrn Dr. R. Frowein (10.6.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) an Herrn Hermann J. Abs (12.6.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) an Herrn Hermann J. Abs (21.6.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Niederschrift über den Verlauf der neunten Sitzung des FEANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 14. Juni 1940, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Rossmarkt 18, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von Hermann J. Abs an die Direktion der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) (27.6.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 31) Frankfurt-Hessischer Beirats. (12.5.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von Dr. Robert Frowein an Herrn Hermann J. Abs (17.5.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von Hermann J. Abs an Herrn Dr. Robert Frowein (20.5.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Donnerstag, den 5. Juni 1941, vorm. 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18. (15.5.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) an Herrn Hermann J. Abs (14.6.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Niederschrift über den Verlauf der zehnten Sitzung des FEANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 5. Juni 1941, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am 5. Juni 1941 (20.6.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 32) Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Dienstag, den 26. Mai 1942, vorm. 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18. (5.5.1942), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Frankfurt-Hessischer Beirat. (4.6.1942), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Niederschrift über den Verlauf der elften Sitzung des FEANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 26. Mai 1942, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von Hermann J. Abs an die Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) am 26. Mai 1942 (6.6.1942), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 33) Der Brief von der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) an Herr Hermann J. Abs (8.4.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann

- J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am 29. April 1938, vormittags 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18. (11.4.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Montag, den 19. September 1938 (8.9.1938), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Donnerstag, den 22. Juni 1939, vorm. 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18. (3.6.1939), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief von der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main) an Herrn Hermann J. Abs (12.6.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Niederschrift über den Verlauf der neunten Sitzung des FRANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 14. Juni 1940, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Rossmarkt 18, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Frankfurt-Hessischer Beirat. (12.5.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Donnerstag, den 5. Juni 1941, vorm. 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18. (15.5.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Niederschrift über den Verlauf der zehnten Sitzung des FRANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 5. Juni 1941, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Der Brief über die Einladung für Herrn Hermann J. Abs zu einer Sitzung des Frankfurt-Hessischen Beirates am Dienstag, den 26. Mai 1942, vorm. 11 Uhr, im Bankgebäude der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Frankfurt a.M., Roßmarkt 18. (5.5.1942), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036, Niederschrift über den Verlauf der elften Sitzung des FRANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 26. Mai 1942, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 34) Frankfurt-hesischer Beirat. (4.12.1940), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 35) Niederschrift über den Verlauf der neunten Sitzung des FRANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 14. Juni 1940, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), Rossmarkt 18, S.1-2, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 36) Niederschrift über den Verlauf der zehnten Sitzung des FRANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN Bank am 5. Juni 1941, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen BANK Filiale Frankfurt (Main), S.1-2, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 37) Niederschrift über den Verlauf der elften Sitzung des FRANKFURT-HESSISCHEN BEIRATS der DEUTSCHEN BANK am 26. Mai 1942, vormittags 11. Uhr, im Sitzungssaal der Deutschen Bank Filiale Frankfurt (Main), S.1-2, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00036.
- 38) Protokoll über die Sitzung der Beiräte der Bezirke Hannover, Braunschweig und Hildesheim am 9. Mai 1939 in den Räumen der Deutschen Bank Filiale Hannover in Hannover., S.1-2, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00039.
- 39) Protokoll über die Sitzung der Beiräte der Bezirke Braunschweig, Hildesheim und Hannover am 14. Mai 1941 in den Räumen der Deutschen Bank Filiale Hannover in Hannover., S.1-2, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00039.
- 40) Protokoll über die Sitzung der Beiräte der Bezirke Braunschweig, Hildesheim und Hannover am 4. Dezember 1942 in den Räumen der Deutschen Bank Filiale Hannover in Hannover., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00039.

- 41) Niederschrift über die 2.Sitzung des Bezirksbeirats Hamburg-Holstein, am 21.Mai 1935, 12 Uhr, S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00040.
- 42) Niederschrift über die 3.Sitzung des Bezirksbeirats Hamburg-Holstein, am 7. November 1935, 11 Uhr, S.1-2, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00040.
- 43) Der Brief an Herr Kessler (23.8.1941), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00035, Der Brief an Herr Doktor Hans Malzacher (17.4.1942), S.1, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00035. 例えば他の地域顧問会の場合をみても, 例えばバイエルン地域顧問会でも, 1936年の3月6日のドイツ銀行のある内部文書によれば, 一般的には年に2度の会議の開催であったとされている。Der Brief von Rummel an Herrn Generaldirektorn Herald Hamberg (6.3.1936), *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00034.
- 44) Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Donnerstag, dem 26.Juli 1934., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041, Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank Filialen Köln am Mittwoch, dem 15.April 1942., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041.
- 45) Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Mittwoch, dem 9.Januar 1935., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041.
- 46) Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Montag, den 17.Juni 1935, *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041.
- 47) Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Mittwoch, dem 27.November 1935., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041.
- 48) Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Dienstag, dem 5. Mai 1936., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041.
- 49) Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirates, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Mittwoch, dem 11. November 1936., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041.
- 50) Sitzung des Rheinisch-Westfälischen Beirats, Sitz Köln im Gebäude der Deutschen Bank und Disconto-Gesellschaft Filiale Köln am Dienstag, den 20. April 1937., *Historisches Archiv der Deutschen Bank*, P00041.

<参考文献>

1 欧文文献 (著者名のあるもの)

- Ahrens, R., Bankenmacht im Aufsichtsrat? Der Bankier Jürgen Ponto und die Kontrolle deutscher Großunternehmen in den 1970er Jahren. In: Ahrens, R., Gehlen, B., Reckendrees, A. (Hrsg.), *Die „Deutschland AG“. Historische Annäherung an den bundesdeutschen Kapitalismus*, 1.Aufl., Klartext-Verlag, Essen, 2013, S.195-220.
- Ahrens, R.A., Bähr, J., *Jürgen Ponto. Bankier und Bürger. Eine Biografie*, C.H. Beck, München, 2013.
- Balsmeier, B., Peters, H., Personelle Unternehmensverflechtung und Vorstandsgehälter. In: *Zeitschrift für Betriebswirtschaft*, 79.Jg, Nr.9, September 2009, S.967-984.

- Beyer, J., *Managerherrschaft in Deutschland? "Corporate governance" unter Verflechtungsbedingungen*, Westdeutscher Verlag, Opladen, 1998.
- Beyer, J., Deutschland AG a.D. Deutsche Bank, Allianz und das Verflechtungszentrum des deutschen Kapitalismus. In: Streeck, W., Höpner, M. (Hrsg.), *Alle Macht dem Markt? Fallstudien zur Abwicklung der Deutschland AG*, Campus, Berlin, New York, 2003, S.118-146.
- J. Böhm, *Der Einfluß der Banken auf Großunternehmen*, S+W, Steuer- und Wirtschaftsverlag, Hamburg, 1992.
- Büschgen, H.E., *Die Großbanken*, Fritz Knapp Verlag, Frankfurt am Main, 1983.
- Cable, J.R., The Bank-Industry Relationship in West Germany: Performance and Policy Aspects. In: Schwalbach, J. (Hrsg.), *Industry Structure and Performance*, Edition Sigma, Berlin, 1985, pp.17-40.
- Decher, C.E., *Personelle Verflechtungen im Aktienkonzern. Loyalitätskonflikt und qualifizierter faktischer Konzern*, Verlag Recht und Wirtschaft, Heidelberg, 1990.
- Deutsche Bank, *Einunddreissigster Geschäfts-Bericht des Vorstandes der Deutschen Bank für die Zeit vom 1.Januar bis 31.Dezember 1900*.
- Deutsche Bank, *Vierundvierzigster Geschäfts-Bericht des Vorstandes der Deutschen Bank für die Zeit vom 1.Januar bis 31.Dezember 1913*.
- Deutsche Bank, *58. Geschäftsbericht des Vorstandes der Deutschen Bank für das Jahr 1927*.
- Deutsche Bank, *Jahresbericht über des 59.Geschäftsjahr 1928*.
- Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1937*.
- Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1938*.
- Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1939*.
- Deutsche Bank, *Geschäftsbericht für 1940*.
- Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1932*.
- Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1934*.
- Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1935*.
- Deutsche Bank und Disconto-Gesellschaft, *Geschäftsbericht 1936*.
- Edwards, J., Fischer, K., *Banks, Finance and Investment in Germany*, Cambridge University Press, Cambridge, 1994.
- Eglau, H.O., *Wie Gott in Frankfurt: Die Deutsche Bank und die deutsche Industrie*, 3.Aufl., Econ Verlag, Düsseldorf, 1990 [長尾秀樹訳『ドイツ銀行の素顔』東洋経済新報社, 東京, 1990年].
- Gall, L., *Der Bankier Hermann Josef Abs. Eine Biographie*. C.H. Beck, München, 2004.
- Gerhardt, M., *Industriebeziehungen der westdeutschen Banken*. Sandler, Frankfurt am Main, 1982 [飯田裕康監修, 相沢幸悦訳『西ドイツの産業資本と銀行』亜紀書房, 東京, 1985年].
- Gottschalk, A., Der Stimmrechtseinfluß der Banken in den Aktionärversammlungen von Großunternehmen. In: *WSI Mitteilungen*, 41.Jg, Nr.5, Mai 1988, S.294-304.
- Koubek, N., Personelle und institutionelle Verbindung der Bereiche "Produktion" und "Kapital" in der Wirtschaftsgesellschaft der BRD. In: *WWI-Mitteilungen*, 24.Jg, Heft 8/9, 1971, S.258-274.
- Krenn, K., *Alle Macht den Banken? Zur Struktur personaler Netzwerke deutscher Unternehmen am Beginn des 20. Jahrhunderts*, Springer, Wiesbaden, 2012.
- Lenin, V.I., *Империализм, как высшая стадия капитализма: популярный очерк*, 2-е изд, Москва: Партийное изд-во, 1932 [聴濤弘訳『帝国主義論』新日本出版社, 東京, 1999年].
- Meyen, H.G., *120 Jahre Dresdner Bank*. Unternehmens-Chronik, Dresdner Bank AG, Frankfurt am Main, 1992.
- Monopolkommission, *Fortschreitenden Konzentration bei Großunternehmen: Hauptgutachten 1976/77* (Hauptgutachten II), Nomos, Baden-Baden, 1978.
- Pfannschmidt, A., *Personelle Verflechtungen über Aufsichtsrate. Mehrfach-Mandate in deutschen*



- Unternehmen*, Gabler, Wiesbaden, 1993.
- Pfeiffer, H., *Das Imperium der Deutsche Bank*. Campus, Frankfurt am Main, 1987.
- Pfeiffer, H., Das Netzwerk der Großbanken. Personelle Verflechtungen mit Konzernen, Staat und ideologischen Apparaten. In: *Blätter für deutsche und internationale Politik*, 31.Jg, Heft 2, 1986, S.161-177.
- Pfeiffer, H., *Die Macht der Banken. Die personellen Verflechtungen der Commerzbank, der Deutschen Bank und der Dresdner Bank mit Unternehmen*, Campus, Frankfurt am Main, 1993.
- Pfeiffer, H., Großbanken und Finanzgruppen. Ausgewählte Ergebnisse einer Untersuchung der Personellen Verflechtungen von Deutscher, Dresdner und Commerzbank. In: *WSI Mitteilungen*, 39.Jg, Nr.7, Juli 1986, S.473-481.
- Sattler, F., *Ernst Matthiensen (1900-1980). Ein deutscher Bankier im 20. Jahrhundert*. Eugen-Gutmann-Gesellschaft, Berlin, 2009.
- Schönwitz, D., Weber, H.-J., Indirekte personelle Verflechtungen zwischen Großunternehmen über Organe der Geschäftsführungskontrolle. In: *Konjunkturpolitik*, 27.Jg, Heft 1, 1981, S.12-37.
- Schönwitz, D., Weber, H.J., *Unternehmenskonzentration, Personelle Verflechtungen und Wettbewerb. Eine Untersuchung auf der Grundlage der hundert größten Konzerne der Bundesrepublik Deutschland*, Nomos Verlagsgesellschaft, 1.Aufl., Baden-Baden, 1982.
- Schwarz, F., *Die Deutsche Bank. Reise auf tönerner Füßen*. Campus, Frankfurt am Main, New York, 2003.
- Stanzick, K.-H., *Der ökonomische Konzentrationsprozeß*. In: Schäfer, G., Nedelmann, C. (Hrsg.), *Der CDU- Staat. Analysen zur Verfassungswirklichkeit der Bundesrepublik*, Bd.I, 2. Aufl., Schurkamp, München, 1969, S.48-79.
- Windolf, P., *Corporate Networks in Europe and the United States*, Oxford University Press, New York, 2002.
- Windolf, P., The Corporate Networks in Germany, 1896-2010. In: David, T., Weserhuis, G. (eds.), *The Power of Corporate Networks. A Comparative and Historical Perspective*, Routledge, New York, 2014, pp.66-85.
- Ziegler, R., Das Netz der Personen- und Kapitalverflechtungen deutscher und österreichischer Wirtschaftsunternehmen. In: *Kölner Zeitschrift für Soziologie und Sozialpsychologie*, 36.Jg, Heft 3, 1984, S.585-618.
- Ziegler, R., Bender, D., Biehler, H., Industry and Banking in the German Corporate Network. In: Stokman, F.N., Ziegler, R., Scotto, J. (eds.), *Networks of Corporate Power. A Comparative Analysis of Ten Countries*, Polity Press, Cambridge, 1985, pp.91-111 [上田義朗訳『企業権力のネットワーク 10カ国における役員兼任の比較分析』文眞堂, 1993年, 98-120ページ].

## 2 欧文文献 (著者名のないもの)

- Die Deutsche Bank—Zentrum des deutschen Finanzkapitals, *D.W.I. Bericht*, 12.Jg, Nr.15, August 1961, S.1-21.

## 3 日本語文献

- 相沢幸悦『欧州最強の金融帝国 ドイツ銀行』日本経済新聞社, 東京, 1994年。
- 相沢幸悦『西ドイツの金融市場と構造』東洋経済新報社, 東京, 1998年。
- 前川恭一『日独比較企業論への道』森山書店, 1997年, 東京。
- 山崎敏夫『ドイツの企業間関係——企業間人的結合の構造と機能——』森山書店, 東京, 2019年。
- 山崎敏夫「独占資本主義への移行期におけるドイツ大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』(立命館大学), 第58巻第4号, 2019年11月, 1-33ページ。



- 山崎敏夫「第1次大戦後のインフレーション期におけるドイツ大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第58巻第5号，2020年1月，19-61ページ。
- 山崎敏夫「ナチス期におけるドイツ大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第58巻第6号，2020年3月，179-222ページ。
- 山崎敏夫「1965年株式法以前の時期におけるドイツ3大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第57巻第3号，2018年9月，71-119ページ。
- 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期におけるドイツ3大銀行の役員兼任の構造——他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第57巻第4号，2018年11月，21-57ページ。
- 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期におけるドイツ鉄鋼業企業8社の役員兼任の構造——他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第57巻第5号，2019年1月，87-126ページ。
- 山崎敏夫「ドイツ化学産業，電機産業，自動車産業における主要企業の役員兼任の構造——1965年株式法以後の時期における他社の監査役会および取締役会における人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第57巻第6号，2019年3月，53-100ページ。
- 山崎敏夫「ドイツ大企業の役員兼任の構造——”*Handbuch der Grossunternehmen 2017*”に基づく銀行業，保険業，鉄鋼業，化学産業，電機産業，自動車産業の分析——」『立命館経営学』（立命館大学），第59巻第2号，2020年7月，1-21ページ。
- 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期のドイツ銀行業，電機産業および自動車産業における主要企業の監査役兼任ネットワークの構造」『立命館経営学』（立命館大学），第58巻第2号，2019年7月，43-89ページ。
- 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期のドイツ鉄鋼業，化学産業における主要企業の監査役兼任ネットワークの構造」『立命館経営学』（立命館大学），第58巻第3号，2019年9月，29-69ページ。
- 山崎敏夫「ドイツにおける監査役兼任による企業間人的ネットワークと『金融資本』」『比較経営研究』，第44号，2020年3月，91-117ページ。
- 山崎敏夫「ドイツ大銀行の企業間人的結合の史的分析——ドイツ銀行の役員兼任と監査役兼任ネットワーク——」『比較経営研究』，第45号，2021年10月，130-161ページ。
- 山崎敏夫「独占資本主義への移行期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第59巻第3号，2020年9月，33-50ページ。
- 山崎敏夫「第1次大戦後のインフレーション期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第59巻第4号，2020年11月，33-50ページ。
- 山崎敏夫「ナチス期のドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第60巻第1号，2021年5月，43-66ページ。
- 山崎敏夫「1965年株式法以前の時期におけるドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第60巻第2号，2021年7月，1-27ページ。
- 山崎敏夫「1965年株式法以後の時期におけるドイツにおける保険業企業の役員兼任の構造——他社の監査役会での人的結合——」『立命館経営学』（立命館大学），第60巻第3号，2021年9月，1-26ページ。
- 山崎敏夫「ドイツにおける役員兼任の役割と意義（Ⅰ）」『立命館経営学』（立命館大学），第60巻第4号，2021年11月，19-40ページ。
- 山崎敏夫「ドイツにおける役員兼任の役割と意義（Ⅱ）」『立命館経営学』（立命館大学），第60巻第5号，2022年1月，19-47ページ。
- 山崎敏夫「第2次大戦前のドイツ大銀行の顧問会制度による企業間人的結合——ナチス期のドイツ銀行

の事例——」『立命館経営学』(立命館大学), 第 59 巻第 1 号, 2020 年 5 月, 59-81 ページ。

山崎敏夫「1965 年株式法以後の時期のドイツにおける顧問会制度による企業間人的結合の構造——銀行顧問会と産業企業の顧問会による人的結合の分析——」『立命館経営学』(立命館大学), 第 58 巻第 1 号, 2019 年 5 月, 1-43 ページ。

## Activities of the Advisory Council Organization of Large German Bank before World War II: Cases of Deutsche Bank's Regional Advisory Council System

Yamazaki, Toshio \*

### Abstract

In Germany, industry–bank relationships built through various mechanisms such as bank credit and securities businesses, stockholdings and deposited stock system, and assignment of directors from banks to corporation boards and from industrial enterprises to bank were already established before World War II. Such a system formed the basis of the banks' influence on corporations and exchanging and sharing information, and coordination of interests and conflicts between a bank and industrial enterprises and among corporations. However, the advisory council system of banks had also played a significant role in collecting, exchanging, and sharing information and cooperation among enterprises. It was as an important means of complementing personnel relations formed through the interlocking directorates. Whereas a central *advisory council was created* for head offices of banks after World War II, regional advisory councils of bank established in major districts were already important means of personnel connection between bank and industrial enterprises and among corporations before the war. This paper considers activities of advisory council and roles of personnel connection through such organization before the war on the basis of original historical materials of large German bank. It examines the conditions for holding meetings and their members, the contents of each meeting, and personnel issues, such as elections of members of regional advisory councils as an important foundation for the functioning of such an organization. Roles of advisory council systems and personnel connections through such an organization will be clarified using case study of Deutsche Bank's regional advisory councils.

### Keywords:

Advisory Council · Bank · Deutsche Bank · Germany · Industry–bank relationship · Interlocking directorate · Regional advisory council · Supervisory board

---

\* Professor, College of Business Administration, Ritsumeikan University

